

TOP MUSEUM

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099 FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14

Photography of Innocence and of Experience: Contemporary Japanese Photography vol.14

2017年12月2日(土) — 2018年1月28日(日)



いまを生きる私たちのまなざしによって見つめ返したい。

片山真理 / 金山貴宏 / 鈴木のぞみ / 武田慎平 / 吉野英理香

作品図版：片山真理《子供の足の私/I have child's feet》2011年 ©Mari Katayama

テキスト：鈴木のぞみ“Monologue of the Light”より

本展について

「日本の新進作家」展は、写真・映像の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘するため、新しい創造活動の展開の場として 2002 年より開催しています。14 回目となる「無垢と経験の写真」展では、日々の生活の中から純粋な個々人の経験を紡ぎ、多様なアプローチで削りだしている作家 5 名の写真表現を最新作と共にご紹介します。

身体性やアイデンティティを確認しながら挑戦し続ける、片山真理

家族の関係を写真行為を通して繰り返し問う、金山貴宏

何気ない風景の記憶を意外な方法で留めようとする、鈴木のぞみ

自然作用の痕跡を原初的な写真技法で未来へ残そうとする、武田慎平

日常から抽出した瞬間から独特な写真的時間を創出する、吉野英理香

これらの表現は私達自身への問いとなり、その考察や反応がまたアーティストへと返り、未来の表現へと活かされていきます。いまと未来をつなぐ対話は、地域や世代を超えて響き合い、やがて増幅して、大きな渦を起こす契機となるかもしれません。

「無垢と経験の写真」は、18 世紀のイギリスの詩人であり、画家であるウィリアム・ブレイクの「無垢と経験の歌」に基づいたタイトルです。

出品作家紹介



片山真理 Katayama Mari

《小さなハイヒールを履く私》2011 年
発色現像方式印画 ©Mari Katayama

1987 年埼玉県生まれ、群馬県育ち、幼少期より裁縫に親しむ。9 歳の時、先天性四肢疾患により両足を切断。群馬県立女子大学文学部美学美術史学科卒業後、東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻、修了。手縫いの作品や装飾を施した義足等と共にセルフポートレイトを制作。あいちトリエンナーレ（2013 年）、「六本木クロッシング」（森美術館、2016 年）等。2011 年より特製のハイヒールを履き、歌手やモデルとしてステージに立つ「ハイヒールプロジェクト」を実施。その他、講演、執筆など活動は多岐にわたる。今年 7 月出産後に制作した作品を初公開。

本リリースに掲載されている作品はすべて作家蔵です。



金山貴宏 Kaneyama Takahiro

《家族 箱根にて》from 〈While Leaves are falling…〉
2009年 インクジェット・プリント
©Takahiro Kaneyama

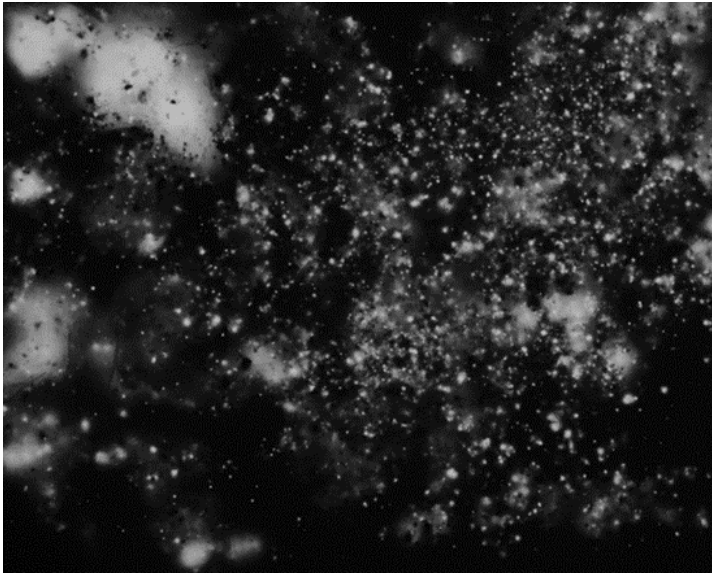
1971年東京都生まれ、1993年渡米、NY市立大学シティカレッジ、スクール・オヴ・ヴィジュアルアーツ大学院を経て、ICPドキュメンタリー学科在籍中からフリーランスの写真家として活動。「Making a Home: Japanese Contemporary Artists in NY」展（Japan Society, NY, 2007-08年）等で注目され、『While Leaves are falling…』（2016）の写真集（赤々舎）、展覧会（新宿ニコンサロン）で、2017年、さがみはら写真新人奨励賞を受賞。このシリーズは作家が20歳の時、実母が統合失調症を発症。言動が全く別人のようになり、入院生活を送る実母と2人のおば（実母の姉妹）の記録である。作家がNYから帰国し、4人旅を繰り返す、現在進行形の作品群。



鈴木のぞみ Suzuki Nozomi

《久仁屋工場2階の窓》from 〈Other Days, Other Eyes〉 2013-17年 窓ガラスに写真乳剤
©Nozomi Suzuki
Courtesy of rin art association（撮影：木暮伸也）

1983年埼玉県生まれ、東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域卒業後、東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修士課程を経て、現在、博士後期課程在籍。2012年頃より、アトリエ兼自宅の中で、扉の鍵穴や引出し等、生活環境の中の「穴」を利用したピンホール印画の作品を制作。取り壊される家や不要となった窓を枠ごと保管し、窓ガラスが映していた風景を記録する作品等でアートアワードトーキョー丸の内2015フランス大使館賞やVOCA展2016奨励賞等を受賞。制作は、コーヒードリッパーや鍋の穴を用いたピンホール作品や、実際に使用していた鏡に映していたであろう人や風景を印画した作品など多岐に及んでいる。



武田慎平 Takeda Shimpei

左：《Trace #7, Nihonmatsu Castle(二本松城)》
from 〈Trace(痕)〉 2012年
ゼラチンシルバー・プリント ©Shimpei Takeda

参考図版：新作〈Glaze(釉)〉の制作風景。
土に印画紙を埋めて感光させている。



1982年に両親の故郷、福島県で生まれ、千葉県で育つ。2002年以降NYで写真制作を行うかたわら、ビデオ・アーティストとして作曲家等とコラボレーションを中心とした制作活動を行う。近年、カメラを使用せず制作するフォトグラム作品を手がける。東日本大震災後、名所や旧跡の土を用い、放射線で感光させたフォトグラム作品〈Trace(痕)〉が高く評価され、「A Different Kind of Order: The ICP Triennial」(ICP、NY、2013年)、「In the Wake」(ボストン美術館他、2015年)等多数の国際展に参加。2014年帰国、2015年より宮城県仙台市在住。本展覧会で、自然作用の様々な要素から制作する新シリーズ〈Glaze(釉)〉を初公開。



吉野英理香 Yoshino Erika

《Untitled》from 〈NEROLI〉 2013年
発色現像方式印画 ©Erika Yoshino
Courtesy of Taka Ishii Gallery Photography / Film

1970年埼玉県生まれ、1989年から写真作品の制作を開始し、1994年に東京総合写真専門学校を卒業。写真家鈴木清の影響を受けながら、日常的な風景を撮り続け、モノクロ作品を制作。2010年からカラー作品の制作を開始し、2011年に『ラジオのように』（オシリス）を発表、その言葉に尽くしがたい独特の雰囲気の評価される。「Polypolis: Art from Asian Pacific Megacities」（ハンブルク市美術館、2001年）、「Black Out: Contemporary Japanese Photography」（ローマ日本文化会館他、2002年）等の国際展に参加。2016年、撮りためた大量の作品から抽出して編んだ写真集『NEROLI』（赤々舎）が注目される。本展覧会では、『NEROLI』の続編ともいえる新シリーズを初公開。

※「NEROLI」は大量のビターオレンジの花から、ほんの少量抽出されるフラワーエッセンス。

関連イベント

アーティスト対談

2017年12月3日(日) 15:30 ~17:00

武田慎平×小澤慶介(アート／インディペンデント・キュレーター)

2017年12月9日(土) 15:30 ~17:00

吉野英理香×金子隆一(写真史家)

2017年12月16日(土) 15:30 ~17:00

鈴木のぞみ×小原真史(IZU PHOTO MUSEUM 研究員／映像作家)

2018年1月11日(木) 18:00~19:30

片山真理 × 小谷元彦(美術家／彫刻家)

2018年1月13日(土) 15:30 ~17:00

金山貴宏×姫野希美(赤々舎代表取締役／ディレクター)

会場：東京都写真美術館1階スタジオ／定員：各回50名

※当日10時より1階総合受付にて整理券を配布します。番号順入場、自由席。

展覧会担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第2・第4金曜日14:00より担当学芸員による展示解説を行います。展覧会チケット(当日印)をご持参のうえ、2階展示室入口にお集まりください。

※事業はやむを得ない事情で変更することがございます。あらかじめご了承ください。

※イベントの取材をご希望される場合は、広報担当者にお問い合わせ下さい。

展覧会図録

『無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14』(仮)

新作を含めた出品作品と担当学芸員のテキストのほか、各アーティストステートメントを収録予定。

編集／発行：東京都写真美術館

開催概要

無垢と経験の写真 日本の新進作家 vol. 14

Photography of Innocence and of Experience: Contemporary Japanese Photography vol.14

- 会 期 2017年12月2日(土) — 2018年1月28日(日)
- 主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
- 協 賛 凸版印刷株式会社／東京都写真美術館支援会員
- 会 場 東京都写真美術館 2階展示室 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>
- 開館時間 10:00-18:00 (木・金は20:00まで) ただし、1月2日(火)、3日(水)は11:00-18:00
※入館は閉館の30分前まで
- 休館日 毎週月曜日 ただし、1月8日(月・祝)は開館し、翌9日(火)休館。
年末年始12月29日(金)から1月1日(月・祝)は休館。
- 観覧料 一般 700(560)円／学生 600(480)円／中高生・65歳以上 500(400)円
※()は20名以上の団体料金
※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料 ※1月2日(火)は入場無料

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、下記広報担当までご連絡ください。

なお、掲載点数が1点の場合は、展覧会メインイメージとして、本リリース1ページ目の

片山真理 《子供の足の私／I have child's feet》2011年 ©Mari Katayama

をご提供させていただきます。本リリースに掲載されている作品は、すべて作家蔵です。

図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
図版のトリミングおよび文字載せはできません。

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館
1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 <http://topmuseum.jp>

展覧会担当 丹羽晴美 h.niwa@topmuseum.jp 武内厚子 a.takeuchi@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 前原貴子 press-info@topmuseum.jp